

『コンパス産婦人科 改訂第8版』正誤表

p.22 b. 子宮内膜の変化 (3) ③ ※

誤	※～。非妊娠時の分泌 <u>精</u> 子宮内膜の変化は～。
正	※～。非妊娠時の分泌 <u>期</u> 子宮内膜の変化は～。

p.48 c. 血中性ステロイドホルモン測定 / p.104 a. 先天性副腎皮質過形成 ページ下部イラスト・タイトル

誤	副腎皮質でのステロイド <u>全</u> 合成経路と尿中ホルモン
正	副腎皮質でのステロイド <u>生</u> 合成経路と尿中ホルモン

p.55 c. 子宮体部の細胞診 判定 (1) 陰性②、(2) 陽性または偽陽性②

誤	②細胞診陰性でも～(中略)～疑う場合は、(陽性・偽陽性に準じて)～。
	(2) 陽性または偽陽性 ②子宮内膜病変～(中略)～または偽陽性になることがある。
正	②細胞診陰性でも～(中略)～疑う場合は、(陽性・疑陽性に準じて)～。
	(2) 陽性または疑陽性 ②子宮内膜病変～(中略)～または疑陽性になることがある。

p.74 d. MRI ページ右上・国試番号

誤	> 104G39, 103A38, 102D4 <u>0</u> , 100A43, 100F42, 99A39, 96D40
正	> 104G39, 103A38, 102D <u>6</u> 0, 100A43, 100F42, 99A39, 96D40

p.75 d. MRI 判定 (2) 画像 (左)・国試番号

誤	子宮筋腫の骨盤部単純MRIのT2強調画像(102D <u>4</u> 0)
正	子宮筋腫の骨盤部単純MRIのT2強調画像(102D <u>6</u> 0)

p.114 G 原発無月経 診断 (1) 問診

誤	①基礎体温が2相性で、～(中略)～性管閉鎖(腔欠損症、処女膜閉鎖症、腔横中隔)を、周期的腹痛がなければ子宮性無月経(アンドロゲン不応症)を疑う。 ②家族歴～(中略)～聴取する。
	①基礎体温が2相性で、～(中略)～性管閉鎖(腔欠損症など)を疑う。 ②基礎体温が1相性で、周期的腹痛がなければ子宮性無月経(アンドロゲン不応症)を疑う。 ③家族歴～(中略)～聴取する。
正	①基礎体温が2相性で、～(中略)～性管閉鎖(腔欠損症など)を疑う。 ②基礎体温が1相性で、周期的腹痛がなければ子宮性無月経(アンドロゲン不応症)を疑う。 ③家族歴～(中略)～聴取する。

p.148 D 骨盤内炎症性疾患(PID) 概念 (2)

誤	(2)急性 <u>膿</u> 症の原因となり、不妊、無月経の原因となることもある。
正	(2)急性 <u>腹</u> 症の原因となり、不妊、無月経の原因となることもある。

p.187 c. 卵巣腫瘍 診断 (3) ③

誤	～良性のものがある。⇒良性充 <u>急</u> 性卵巣腫瘍
正	～良性のものがある。⇒良性充 <u>実</u> 性卵巣腫瘍

p.196 j. 卵巣癌 疫学 (2) ※

誤	※毎年7,000人が卵巣癌に罹患し、4,000 <u>人</u> が卵巣癌で死亡している。
正	※毎年7,000人が卵巣癌に罹患し、4,000 <u>人</u> が卵巣癌で死亡している。

p.280 e. 各臓器の成熟 (8) 神経、運動器①②

誤	①神経系は～(中略)～成熟するのは生後1年位。 ②四肢の運動、～(中略)～超音波で観察できる。
	①神経系は～(中略)～成熟するのは生後1歳位。 ②四肢の運動は妊娠10週頃から、呼吸様運動、嚥下運動は妊娠16週頃から超音波検査で確認できる。 ※哺乳運動には吸啜・嚥下・呼吸の協調運動が必要である。在胎32～34週以降になると、吸啜運動と嚥下運動が協調できるようになり、経口哺乳が進むようになる。吸啜・嚥下・呼吸の連係が十分に達成するのは在胎37週以降であり、健康な正常産児でも嚥下と呼吸の協調運動は、生後48時間は最善の状態ではない。在胎32週未満の早産児では哺乳行動が未発達で哺乳の意欲がみられないことが多い。
正	①神経系は～(中略)～成熟するのは生後1歳位。 ②四肢の運動は妊娠10週頃から、呼吸様運動、嚥下運動は妊娠16週頃から超音波検査で確認できる。 ※哺乳運動には吸啜・嚥下・呼吸の協調運動が必要である。在胎32～34週以降になると、吸啜運動と嚥下運動が協調できるようになり、経口哺乳が進むようになる。吸啜・嚥下・呼吸の連係が十分に達成するのは在胎37週以降であり、健康な正常産児でも嚥下と呼吸の協調運動は、生後48時間は最善の状態ではない。在胎32週未満の早産児では哺乳行動が未発達で哺乳の意欲がみられないことが多い。

p.306 a. 絨毛膜羊膜炎のスクリーニング (1)細菌性膣症の診断 ※

誤	※～培養陰性ではなく、 <u>Gardnerella vaginalis</u> 陽性である。Lactobacillus (乳酸桿菌) の存在は～。
正	※～培養陰性ではなく、 <u>Lactobacillus</u> (乳酸桿菌) 陽性である。Lactobacillus (乳酸桿菌) の存在は～。

p.335 a. 性器の復古 (2) 産褥子宮の内診 ※

誤	※産褥 6 週で <u>鷺卵大</u> 以上は～。
正	※産褥 6 週で <u>鷺卵大</u> 以上は～。

p.338 c. Apgar スコア 方法 Point!!

誤	①筋緊張やや不良 ⇨第 1 度新生児仮死 (Apgar 4 ～ <u>7</u> 点)
正	①筋緊張やや不良 ⇨第 1 度新生児仮死 (Apgar 4 ～ <u>6</u> 点)

p.384 b. 胎児発育不全 過去問番号上部

誤	* fetal <u>groath</u> restriction
正	* fetal <u>growth</u> restriction

p.408 b. 遅滞破水 (1)

誤	(1) 子宮口が全開大～ (中略) ～卵膜の破綻 <u>を</u> ないもの。
正	(1) 子宮口が全開大～ (中略) ～卵膜の破綻 <u>の</u> ないもの。

p.592 索引 ら行

誤	卵巣動脈 …… <u>10, 10</u>
正	卵巣動脈 …… <u>10</u>

訂正情報につきましては、弊社 web サイトに掲載いたしますので、ご確認くださいませよう、お願い申し上げます。  
<http://www.mecline.jp/category/info/>